

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	宮前区第3グループ(蔵敷・菅生)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人あかい屋根 ・代表者名 理事長 丸山 幸一 ・住所 川崎市宮前区菅生ヶ丘13-2	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	宮前区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 蔵敷こども文化センター ①年間延べ利用者数 22,935人 ②年間延べ利用団体数 385団体</p> <p>2 菅生小学校わくわくプラザ ①登録者数 303人 ②年間延べ利用者数 12,769人</p> <p>3 犬蔵小学校わくわくプラザ ①登録者数 477人 ②年間延べ利用者数 23,657人</p> <p>1 菅生こども文化センター ①年間延べ利用者数 41,611人 ②年間延べ利用団体数 820団体</p> <p>2 稗原小学校わくわくプラザ ①登録者数 293人 ②年間延べ利用者数 16,465人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 78,643,742</p> <p>2 支出 人件費 70,499,989 事務費 4,036,477 事業費 3,462,261 その他 1,946,711 合計 79,945,438</p> <p>3 差引 -1,301,696</p>
サービス向上の取組	「365日子ども会議」を合言葉に、日常の会話から子どもたちのニーズを、イベント終了後は振り返りの時間の中で、要望を聴き出すことが出来ており、利用者が着実に増加している。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 昨年から実施している「すがお手つなぎまつり」では、地域教育会議、菅生・南菅生保育園、菅生分館の他、近隣9自治会や商店からも協力を得ることができ、参加者が1300名へ倍増するなど地域の拠点としての存在感をさらに増している。菅生こども文化センターで実施している、「わんぱく生活学校」では参加者が80名を数えた。「わかば祭」や「暮れの大掃除」の際に日ごろ利用している百合丘高校ダンス部の生徒たちがボランティアとして活躍する姿も定着し始めている。菅生こども文化センターの利用者数は前年度比10%増加している。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
<p>(評価の理由) 会計処理及び金銭管理を適切に行っている。犬蔵小学校わくわくプラザでは利用者増に伴う職員配置に際し、ワークシェアを行うことにより、人件費の抑制に努め、遊具の提供など利用者へのサービスに影響が出ないよう努力している。利用者にも、遊具は大切に使用するよう協力を求めることにより、モノを大切にすることを育むと共に、不要なストックを廃し、管理経費節減に努めている。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 広報に際しては、フェイスブックを利用することによって、父兄の利用が増加している。市民活動の支援では、法人の持つ財産を可能な限り提供することを基本に、軽トラック、印刷機、拡声器、もちつきセットなどを貸出ししている。菅生中学校2年生のカリキュラムの一環として、2日間に渡る「職場体験」を菅生こども文化センターで受け入れている。今年度は10名の受け入れを行った。また、稗原小学校父の会パワーズとも日ごろから連携しており、夏休みに開催される「防災キャンプ」は好評を博している。さらに、「気になる児童」を見かけた際はその都度、稗原、菅生、犬蔵各小学校と情報交換を行い、重篤な事案については、区役所とのケースカンファレンスにも参加し重要な役目を果たしている。職員とボランティアで作成した大型滑り台が好評を博している。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	4	8
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 限りある予算の中でワークシェア等の工夫を凝らし、常時2名以上のスタッフを配置することにより、緊急時や利用者の増加、要支援児童等に対して柔軟な対応ができる体制が確保されている。市の研修や外部研修に積極的に参加したことで、児童厚生員の資格を取得するなど職場で必要とされる専門知識を得ることにより資質向上が見られる。個人情報漏洩等はない。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 菅生こども文化センターの土留め工事、低木の伐採などを職員の自助努力により実施している。また始業時点検、ハウスキーピング、終業時点検を確実に実施することにより安全管理を行っている。防災関係では、年2回の防災訓練を全館で実施した。防犯については、個人ロッカー利用を呼びかけ、利用者同士のトラブル防止に努めた。川崎市健康福祉局発行の「今何の病気が流行っているか」を職員に周知徹底し、必要があれば保護者への注意喚起を促した。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

菅生こども文化センターで行っている「すがおこども大学」で「川崎市寺子屋事業」の「体験活動世代間交流部門」を受け持つなど活躍の場が広がり、魅力あふれる地域の拠点としてなくてはならない存在となっている。地域のメンバーを存分に活用していることも評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、地域に根ざした魅力ある施設として、一人ひとりの子どもたちに寄り添った事業を展開すること、また収支についてはさらなる工夫を期待する。